

1.
  - (1) 設定
    - ・英語を習い始めて間もない頃（中学1、2年生。15、6才）
    - ・或る夏の管
  - (2) どこで
    - ・寺の境内
  - (3) 誰が
    - ・僕
    - ・父
    - ・女
    - ・青い夕霧の奥から浮き出るように  
白い女（服装が白っぽい、イメージが白い）  
物憂げに、ゆっくりと
    - ＝
    - ・幽霊のような感じ＝生命感がない
    - ・身重らしい＝生命を宿している

2. 僕の女に対する反応。
  - (1) 父に気兼ね
    - ・性に目覚めた父に思われなくなかった。
  - (2) 女の腹から眼を離さなかった。
    - ・世に生まれ出ることの不思議に打たれていた。
    - ・単純な好奇心。
  - (3) やっぱり飛躍
    - ・I was born なっだね。
    - ・生まれさせられるんだ。
    - ・自分の意志ではないんだね。
    - ・文法上の単純な発見

3. 父の気持ち
  - ・怪訝そうに＝息子が何を言いたいのか理解できなかった。
  - ・驚いた＝息子が抗議していると思った。
  - ・思いがけない
  - ・蟬の話

蟬	母
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれてから二、三日で死ぬ。</li> <li>・卵は、ただけは、腹の中にぎっしり充満して、ほっそりした胸の方まで及んでいく。</li> <li>・一体何の為に世の中に出てくるのか。</li> <li>・目まぐるしく繰り返される生き死にの悲しみ。</li> <li>・淋しい光の粒粒</li> <li>・せつなげ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・僕を生み落としてすぐに死んだ</li> <li>・白い僕の肉体がほっそりした胸の方まで息苦しくふさいでいた。</li> </ul>

4.
  - ・母との共通点を感じさせ、息子の抗議に答える。
  - ・生まれるのは受け身で自分の意志ではないが、自分の意志で生きて欲しい。
  - ・僕の気持ち
    - ・ほっそりした母の、胸の方まで息苦しくふさいでいた白い僕の肉体
    - ・自分の命が母の命を縮めた。
    - ・母の命を犠牲にして僕が生まれた。
  - ・父の話のそれからあとを覚えていない
    - ・自分の誕生が母を死に追いやったことを知ったから。